

## 5 保育施設における主な感染症

### 《登園・登所意見書(医師の意見)が必要な感染症》

病名	主な症状	かかりやすい年齢及び季節
麻疹 (はしか)	潜伏期間(8~12日) 症状: 元気なし→発熱・鼻汁・目やにが強くなる。 咳→発疹の順に進行する。 初めは風邪の症状に似ている。	生後7~8か月以降幼児期にかけて(幼児期に最もかかりやすい) 春から夏にかけて流行期であったが、最近はやや年間を通じて発生する。
水痘 (みずぼうそう)	潜伏期間(14~16日) 症状: 不機嫌→食欲不振・頭痛・発熱がある ときもある→1日以内に発疹。 発疹は顔・頭・胸と進み全身に発疹が出そろうまでに5日くらいかかる。 口・耳の中にまで出ることがある。	生後3~6か月以降幼児期(2~6歳)に最もかかりやすい。冬から春に多い。 特に集団にいる場合。
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	潜伏期間(16~18日) 症状: 発熱・嘔吐・食欲不振があり物を食べると耳が痛む。1~2日して耳下腺がはれてくる。(耳のすぐ後ろの下)	3~10歳の間に主にかかりやすい。年少児がかかると症状が出にくいことが多い。 流行の多くは地域的にみられる。 髄膜炎を合併することがある。
風疹 (三日はしか)	潜伏期間(16~18日) 症状: 軽い熱と同時に発疹(顔から下のほうへ)リンパ腺が腫れる。1~2日で熱が下がり3~6日で発疹が消える。	生後6か月以降5~15歳の間に主にかかりやすい。
咽頭結膜熱 (プール熱)	潜伏期間(2~14日) 症状: 発熱・咽頭痛・結膜の充血。	幼児期から小学生期に多い。
百日咳	潜伏期間(7~10日) 症状: 日増しに強くなる咳、熱は出ない場合もある。	乳児期から幼児期に多い。
流行性角結膜炎	潜伏期間(2~14日) 症状: 結膜の充血・眼脂(目やに)・結膜にウイルスなどの増殖をみる。	全年齢層
急性出血性結膜炎	潜伏期間(1~3日) 症状: 異物感・充血・まぶたの腫れなど	全年齢層
腸管出血性大腸菌感染症 (O157・O26・O111など)	潜伏期間(10時間~6日) 症状: 症状のないものから下痢(水様便)、腹痛、血便が様々な程度で現れるのが特徴。	全年齢層(発症し重症化しやすいのは子どもと高齢者)

★ その他に、感染症法一類・二類感染症(ポリオ・結核・ウイルス性肝炎など)にかかった場合も登所(園)には医師の指示が必要です。

★ 『登園・登所意見書』の用紙は各認定こども園・保育所にあります。(市ホームページからダウンロードすることもできます。)

### 《登園所届(保護者記入)が必要な感染症》

病名	主な症状	かかりやすい年齢及び季節
インフルエンザ (季節性)	潜伏期間(1~4日) 症状: 突然の高熱・咽頭炎・関節筋肉痛など	全年齢層

新型 コロナウイルス 感染症	潜伏期間(発症2日前～発症後10日程度) 症状：発熱・咳など咽頭炎や風邪と同じような 症状	全年齢層
----------------------	---	------

- ★ 『登園所届』の用紙は各認定こども園・保育所にあります。(市ホームページからダウンロードすることもできます。)

いずれも医師の指示に従って  
治療を受けてください。



《登園・登所意見書(医師の意見)が必要でない主な感染症》

病名	症状など	かかりやすい年齢及び季節
手足口病	潜伏期間(3～6日) 症状：不機嫌→食欲不振・発熱があるときもある。 手足に米粒ほどの水泡をもった発しんができる。 主に手・足・口に発しん。	生後6か月～4、5歳の乳幼児期に多い。 (特に集団にいる場合) 夏期に多い。原因となる病原ウイルスが複数あるため再発することがある。
伝染性膿痂しん (とびひ)	潜伏期間(2～10日) 症状：水疱がつぶれ、かさぶたになり円形状にひろがる。 全身いたるところにできる。	どの年齢にもみられる。 夏の終わりに多くみられる。
伝染性軟属腫 (水いぼ)	潜伏期間(2～7週間) 症状：米粒大までの柔らかい桃色又は真珠色のいぼ。 真中がへそのようにくぼんでいることもある。	幼児期に多い。
溶連菌感染症	潜伏期間(一般に2～5日) 症状：急性扁桃炎・咽頭炎・中耳炎。特徴的な発しんなど。	腎炎・リウマチ熱・血管性紫斑病などの慢性疾患の一部は溶連菌感染症に続いて起こるので担当医の指示を守ることが大事。
伝染性紅斑 (りんご病)	潜伏期間(4～14日) 症状：頬に境界のはっきりした紅い発しんが特徴。	幼児期に多い。
ヘルパンギーナ	潜伏期間(3～6日) 症状：突然の発熱・のどの痛み(水疱・潰瘍)	4歳以下の乳幼児に多い夏かせ。
マイコプラズマ 肺炎	潜伏期間(2～3週間) 症状：発熱・のどの痛み・全身倦怠感、咳は長く頑固であることが多い。	4～9歳位に多い。 夏から初冬に多く、4年周期の流行がみられる。
突発性発しん	潜伏期間(9～10日) 症状：2～4日の高熱で、解熱後全身発しん。	生後6か月～1歳。 1歳をすぎて発症することはまれ。 症状は現れなくてもほぼすべての子どもが免疫を獲得します。
RSウイルス 感染症	潜伏期間(4～6日) 症状：咳、鼻水、発熱が主症状	全年齢層(重症化しやすいのは乳児や、体力の落ちている人)

- ★ その他に、ウイルス性胃腸炎(ノロ・ロタ・アデノウイルス等)・帯状疱疹(ヘルペス)・アタマジラミなどがあります。

- ★ 保育施設は、乳児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団での発症や流行をできるだけ防ぐことはもちろん、ひとりひとりの子どもが快適に生活できることが大切です。子どもが楽しく元気に保育所(園)生活を送れるように集団生活適応できる状態に回復してから登所(園)するよう、ご配慮ください。